「ボッシュの街」埼玉・東松山市、産業構造変革で再生

2022/3/4 18:45 | 日本経済新聞　電子版

ボッシュの東松山第二工場跡地にできた「ビバモール東松山」は市外からも客を集めてにぎわう

世界的な自動車部品大手、独ボッシュの企業城下町ともいえた埼玉県東松山市が変貌している。製造業でボッシュの工場再編を機に車部品中心から食品関連を柱とした企業誘致を進め、流通では大型商業施設が相次いで新規立地。都市計画道路の整備などで宅地開発も進展し、一時減少が続いていた人口は増加に転じた。県内で人口減に悩む他の自治体にも参考になるかもしれない。

東武東上線東松山駅近くの大型商業施設「ビバモール東松山」。2020年にホームセンターや食品スーパーなど30店超を集めて開業、市内外の客でにぎわう。市内の商業施設では10年に開業した県中部最大級の「ピオニウォーク東松山」に次ぐ規模だ。

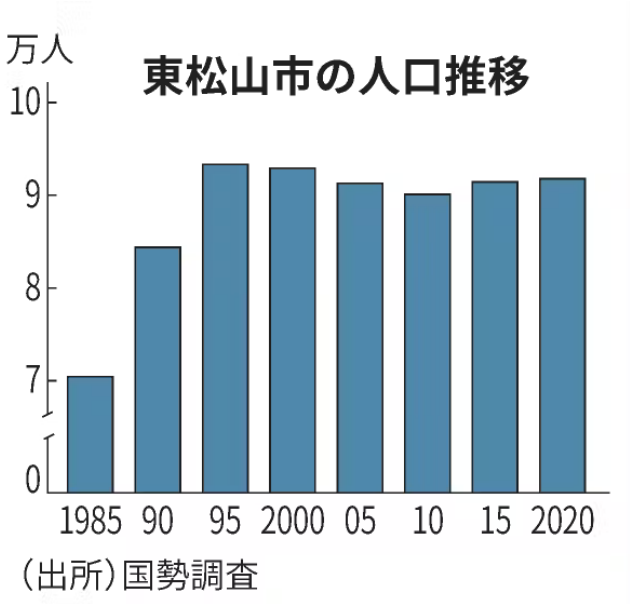
ビバモール東松山は十数年前に閉鎖されたボッシュの東松山第二工場の跡地に立地し、敷地面積は4.2ヘクタール。閉鎖前は約600人の従業員が働いていたという。一部とはいえ、市内最大の企業ボッシュの工場閉鎖は「大きなショックで、それから新たな工業団地などへ企業誘致を強化した」（商工観光課）。

当初は近くの寄居町に工場進出が決まったホンダの部品メーカーなどに狙いを定めたが、08年のリーマン・ショックの影響もあり、不調に終わった。そこで需要変動がより小さく安定

雇用も見込める食品関連中心に戦略を転換、10年代半ばにヤオコーのデリカ・生鮮センター、ソフトクリーム総合メーカーの日世（大阪府茨木市）の工場などの誘致に成功した。

こうした取り組みを映し、20年の工業統計調査（19年実績）では市の製造品出荷額等のうち輸送用機器の比率が34%とおよそ10年前の10年調査比約10ポイント低下した一方、食料品は25%と約8ポイント上昇した。産業が多様化した上、出荷額等全体も40%増の2500億円と拡大させた。

「企業誘致強化と併せて都市計画道路などインフラ整備にも力を入れた」（森田光一市長）。その結果、宅地開発も加速。1995年の国勢調査の約9万3000人をピークに減少していた市の人口は15年調査から増加に転じた。子育て支援の拠点や情報発信の強化なども人口増にプラスに作用した可能性がある。



課題もある。ボッシュは今も市内最大の企業だが、生産品目はディーゼルエンジン車の部品中心。電気自動車（EV）時代の本格化でさらに事業変革が必要になる可能性が高い。商業施設も近隣の深谷市花園地区で秋に約120店が入るアウトレットモールが開業、競争激化が見込まれる。

ただ、東松山市では単純な企業誘致にとどまらない産業振興策にも力を入れる。市や埼玉りそな銀行、地域の事業会社などの出資で16年に設立した東松山起業家サポートファンドを通じて市内に本社を置く成長性の高い未公開企業に出資、新たな企業育成を目指す。

同ファンドはこれまで8社に出資し、「非常にいい運用成績になりそう」とファンド運営・管理を担うPE&HR（東京・千代田）の山本亮二郎社長。これまで本社が市内でも主力拠点は東京などにある企業も多かったが、「直近で出資した2社は地域に根ざした会社になった」（商工観光課）。人口増などをテコに真に地域発の新鋭企業を生み出し続けられるか注目される。

（田中博文）

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。